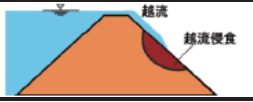


！ため池ハザード情報について

ため池決壊のメカニズム

○豪雨によるため池の被災形態

区分	被災形態	被災メカニズム
越流破壊		豪雨により、貯水位が急激に上昇し、堤体を越えて流れ出すと、下流斜面を流下することによって、破壊する場合がある。 また、貯水位の上昇により、堤体内の水圧も上昇し、強度が低下して破壊する場合がある。
すべり破壊		貯留した水と降雨が堤体の中に浸透して、堤体内部の水分量が増加し、堤体の法面部の強度が低下することによって、法面部ですべりが発生し破壊する場合がある。
浸透破壊		堤体内が劣化して、水を遮る機能が低下すると、貯水位が上昇した時に堤体の中の水圧も上昇して強度が低下し、破壊する場合がある。 また堤体内に上流から下流に向かう水みちが発生し破壊する場合がある。

○地震によるため池の被災形態

区分	被災形態	被災メカニズム
クラック		堤体の頂部などにクラック(亀裂)が発生する場合がある。 堤体の上下流方向に生じるクラック(亀裂)は水みちとなることがあり、特に注意が必要である。
沈下		堤体の形状をほぼ保ち、クラック(亀裂)などを伴いながら堤体が沈下する場合がある。多くは軟らかい地盤で発生している。
斜面崩壊		堤体法面の上部が沈下し、下部がはらんで変形が生じる場合がある。
斜面すべり		地震動により堤体の法面にすべりが発生する場合がある。
崩壊		堤体や地盤が大きく変化し、崩壊する場合がある。決壊に至ることが多く、堤体や基礎地盤の液状化によるものと考えられる。

ため池の浸水想定について

ため池の浸水想定は、以下の条件によりシミュレーションしています。

- ため池が満水の状態で、地震または大雨により決壊する。
- ため池の周辺に大雨が降り、水路等の水位が上昇する。

※想定を超える気象条件下では、浸水区域が拡大する可能性があり、必ずしもこのハザードマップの浸水想定通りになるとは限りません。異常を感じたら早めの避難を心がけましょう。

避難時の注意点

- 一時間雨量20mm以上になると災害が発生するおそれが高まります。
- 長雨が続いた場合は、地盤が緩み、災害が発生する可能性が高まります。
- 歩行可能な水深は50cmと言われています。ため池決壊時には水深に注意してください。
- ため池の貯水は、流出してしまうと徐々に水は引きますが、ため池の周辺の沢や川の水が完全に引くまで避難しててください。
- 避難できる状況にある場合は、ハザードマップを参考に浸水想定区域を避けながら迅速に避難してください。
- 大雨時にはテレビやラジオ、防災無線等の気象情報及び避難情報等に注意し、早い段階での避難を心がけてください。
- 強い地震が発生した場合や強雨により外出が難しい場合は、自宅の2階など、できるだけ高いところへ避難してください。

日頃からの管理の徹底

ため池の老朽化や維持管理の不備が、突発的な事故の引き金となります。日頃から適正な管理に努めましょう。

- ため池堤体の草刈り、洪水吐けの清掃の徹底など。
- 大雨や長雨が予想される場合は、低水位管理とするなどの工夫。